

大阪府の消防団員一同より宮崎県消防協会に新燃岳噴火にかかる義援金を寄付いたしました。

平成23年1月26日に宮崎県と鹿児島県にまたがる霧島連山の新燃岳が噴火。現在も噴火が続き、墳石、降灰などの被害や雨などによる土石流への警戒が続いています。

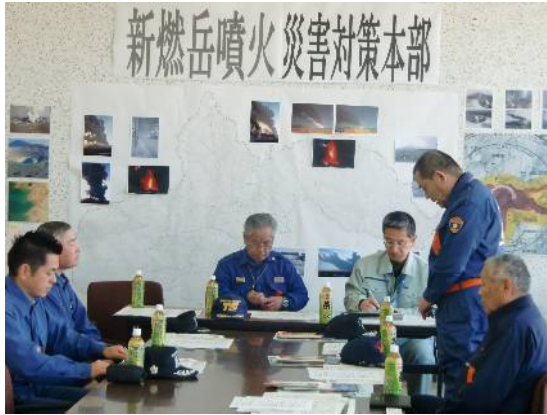
宮崎県下では、被災地域である都城市・高原町・三股町などの消防団員が、地域の警戒活動、住民の避難誘導・巡回広報、要援護者の避難補助、降灰除去作業などを実施されています。

災害活動に従事されている消防団の同志を支援するために、平成23年3月7日、宮崎県消防協会事務所（宮崎市）にて財団法人宮崎県消防協会長に大阪府下の全消防団員一同より募った義援金を寄付いたしました。

義援金は財団法人宮崎県消防協会を通じ、被災地支援に使われます。



財団法人宮崎県消防協会 尾中 代傳会長（左）に義援金を贈呈する財団法人大阪府消防協会 秋田 治夫会長（中央）、同協会 大塚 馨副会長（右）



高原町役場 災害対策本部



霧島連山から流れる川



新燃岳の麓



火山灰を再利用した大型の土のう

高原町役場にて、財団法人宮崎県消防協会 川野副会長、高原町消防団 弘田団長、小林市 総務課 南正覚氏、高原町 横山総務課長、中嶋主査より、被害状況の説明を受けたのち、高原町の土石流の警戒箇所などを視察。